

のみをほおり出した人夫たちは、夢中になって両手で石や土をかき出しました。穴の向こうにぼうつと明かりが見え、向こう側の人夫のまっ黒な顔が見えたと思うと、明かりも人夫もだんだんかすんできました。豊助は泣いていたので、おさえようとしても、涙が後から後から出てきました。

「佐藤さま、ようやく——」。

うしろから伊喜右衛門が泣き声と共に手をさし出しました。

「ありがとう。」

あとはことばにならないまま、豊助も伊喜右衛門の手をにぎりしめました。

かげの功勞者こうろうしや

新しい戸の口用水路の完成によって豊助の名は高まり、次から次へと仕事を